

鋼 橋 技 術 研 究 会

示 方 書 研 究 部 会

特 殊 橋 (新 交 通 等) 基 準 研 究 分 科 会

昭 和 6 3 年 度 活 動 報 告 書

平 成 元 年 4 月

まえがき

”鋼橋技術研究会”は、我が国における鋼橋技術の発展への寄与と会員相互の交流を計る事を目的として昭和59年度に発足し、下記の6研究部会より構成され、昭和60年度より実質的活動を開始し、今年で4年目の活動に入っている。

- | | | | |
|----|-------------|--------|-----|
| 1. | 示方書研究部会 | — 西野文雄 | 部会長 |
| 2. | 海外橋梁技術研究部会 | — 川口昌宏 | 部会長 |
| 3. | 鋼橋の維持管理研究部会 | — 寺田博昌 | 部会長 |
| 4. | 防音構造研究部会 | — 鳥居邦夫 | 部会長 |
| 5. | 防錆設計技術研究部会 | — 津山繁昭 | 部会長 |
| 6. | 複合構造研究部会 | — 若下藤紀 | 部会長 |

”特殊橋（新交通等）基準研究分科会”は、示方書研究部会を構成する4分科会の1つとして、分科会員15名で前年度に引き続き、63年度の活動を行ってきた。

今年度の活動は、例年の如く本年度の活動目標設定に関する討議から始まった。昨年までの過去3年間では新交通・モノレールに着目し、その事例や基準および試設計について研究を進めてきた。このテーマについては一応昨年で完了とし、今年は最近注目を浴びているリニアモーターカー（磁気浮上式列車）構造物と人工地盤構造物の2テーマについて同時に研究する事とした。

リニアモーターカーは中央新幹線はもとより北海道、埼玉県、山梨県、新潟県、……等多くの計画が提案されており、今後多くの投資が見込まれる。また我々に馴染みの深いペDESTリアンデッキに代表される人工地盤も、土地の異常な高騰と共に様々な形態での提案が成されており、今後、我が国での事例が多く見込まれる構造物である。

前年迄のテーマであった新交通関連はその事例も多く、それなりに基準も一通り揃っていたが、今年度のテーマであるリニアモーターカー関連は事例が少なくその基準もないと云える。また人工地盤についてはその形態は広範囲であり、我が国ではその内のある特定の構造物についてのみ多くの事例が見られる。しかしながらその設計基準はやはりなく、既存の基準を流用しているのが現状である。この様なことから当研究部会では今年度の目標として、基準そのものよりはむしろその基準を取り囲む環境に着目し研究を行う事とした。具体的にはそのテーマに関する情報を収集し整理を行う事によって、その問題点を明かにし今後の基準を組み立てて行く上での基礎資料を作ることである。

本報告書はこの様な主旨よりまとめられた物である。